

「中高生の生活とテレビ」に関する調査報告書作成にあたって

放送と青少年に関する委員会委員長 汐見 稔幸

若者の読書離れが言われて久しくなっていますが、若者のテレビ離れについても、昨今多方面から指摘されるようになっていきます。スマホやPCなどででっとり早く、自分の好きなときに好きなペースで手軽に情報を手に入れるスタイルに次第に移りつつあるのではないかと、ということです。

本委員会は、こうした予測がどの程度あっているのか、現代の中高生のテレビ視聴の実態はどうか、現代の中高生はテレビに何を期待しているのか、等々について、実際に調べてみることにしました。その調査結果がこの報告書です。

詳しい結果内容については本報告書をつぶさにご覧いただくしかありませんが、現代の中高生は一般にいわれるほどテレビ離れをしているわけではないことは分かったことは大事なことだと思います。テレビには、テレビでしか得られない効用があり、今の若者たちはそのことを大人よりもむしろよく知っていて、有効に活用して生活している様子が浮かび出ています。

その背後には、デジタル放送と大画面受像器による受信というテレビメディアのハード面での発展を機としたテレビの可能性の再発見ということがあるのかも知れません。調査から家族で楽しむということに対する期待が若者にもあること、家族全員が楽しめる番組への期待が高いことも読みとれるのですが、それを可能にしているハード面での進歩がテレビの場合大きいことが予測されます。裏を返せば、スマホやPCには、このメディアでしか得られない別の効用があり、それとテレビの効用とを上手に使い分ける時代が始まっているといえるのかも知れません。

そうだとしますと、メディアがどんどん多様化する現代という時代に、テレビでしか得られない効用はなにかということをも可能な限り明らかにしていくことが、これからのテレビのあり方を考える上でもっとも大事なことになってくるでしょう。大画面、4K、8Kなどきめの細やかな映像、3Dによる立体的映像、などの方向はその先駆けで、テレビだけが与えうる効用を一層切り開こうとしているのだと思います。同じ努力をソフト面、つまり番組内容で追求することがこれからのテレビ関係者の最大課題になっていくでしょう。私たちもこの議論に参加したいと思っています。

本報告書が、そうした検討の際の基礎資料の一つとして活用されることを願っています。

目 次

▲ 「報告書作成にあたって」

放送と青少年に関する委員会委員長 汐見 稔幸

▲ 調査報告

萩原 滋

- 1 調査の目的と方法…………… 1
- 2 家や学校での生活状況…………… 3
- 3 学校での話題（友だちと話すこと）…………… 15
- 4 メディア環境、テレビ以外のメディアの利用状況…………… 20
- 5 テレビの視聴状況…………… 33
- 6 視聴する番組ジャンル、番組名…………… 50
- 7 テレビの効用や影響に関する認識…………… 54
- 8 テレビと他メディアの利用パターンの分析…………… 62
- 9 むすび…………… 70

▲ 調査報告を受けて

スマホ個人主義とどうたたかうか 汐見 稔幸…………… 75

調査研究結果への所感 加藤 理…………… 79

▲ 資料 「中高生の生活とテレビ」に関する調査 調査票…………… 85